

## みなと舎物語

素晴らしい人生の物語

20周年記念誌 特別編

<http://www.minato-yuu.or.jp>

TAMAGOMUSHI

たまごむし

VOL.06 2018 OCT



### カーペット

通所施設「ゆう」も入所施設「ライフゆう」も全部カーペット敷きです。メンバーさんに、家庭のように穏やかな時間を過ごしていただきたいという想いが詰まっています。



### メンバーとスタッフ

「利用者さん」→「メンバー」…  
みなと舎を構成する主役。  
「指導員」→「スタッフ」…  
メンバーを支えるスタッフ。  
私たちの関係性を表す大切なキーワードです。

# Sincerity

物語の現場から

## みなと舎の心

メンバーさんの気持ちを想像して…。  
建物やスタッフという  
目に見えるものだけでなく、  
大切にしている  
心がけがあります。



### 靴下ばき

メンバーさんが床に横になった時、  
目の前に靴や上履きが来るのは嫌ですね。  
カーペット敷きの施設内では、  
スタッフは清潔でカラフルな靴下で  
仕事をしています。

### 制服がない！

スタッフは私服を着ています。  
メンバーさんに季節感を  
楽しんでいただくとともに、  
全員が同じ支援をしている  
という気持ちでいるために、  
職種別の制服はありません。



### 「さん」付けで呼ぶ

こちらは親しいつもりで、  
つい「ちゃん」付けで  
話しかけてしまいがちですが、  
親しさを決めるのは  
メンバーさんご自身。  
年齢に関係なく、  
みんな「さん」付けで  
呼んでいます。



お気軽にお電話  
ください！



## 社会福祉法人 みなと舎

神奈川県横須賀市芦名 2-8-17

<http://www.minato-yuu.or.jp>

TEL 046-855-3911 (担当: 山本・森下)

FAX 046-855-3912

みなと舎 求人 検索



特集 はじまりの物語 ～みなと舎のあゆみ～

大公開?! 物語の「バックステージ」

いつだって、ここは「港」/ メンバーさんのチャレンジTODAY!  
みなと舎サポーターズ!! / 20周年感謝のつどい! / みなと舎の心



お問合せは  
こちらに!



# いつだって、ここは「港」

みなと舎からひろがる、未来の物語

お話を伺いました!



これでいいのだ!



理事長  
食沢 正幸 様

## 「子ども時代」から、 人生まるごと

メンバーさんと、チャレンジの道を歩んで20年。入所施設「ライフゆう」を開設したことで、メンバーさんは人生の将来像をつかみつつありますが、まだまだやりたいことはたくさんあります。核家族化が進んだ結果、子育てに悩む親も増えてきました。重症心身障害児のご家族も同じ状況です。メンバーさんとみなと舎の次なるチャレンジは、乳幼児期から始まる「子ども時代」の充実だと考えています。まだまだスタートしたばかりの親子の人生。未来の光を見出せず、苦しい思いをしている方々にしっかりと寄り添っていきたいです。

## 秘伝?! 「美しい支援」

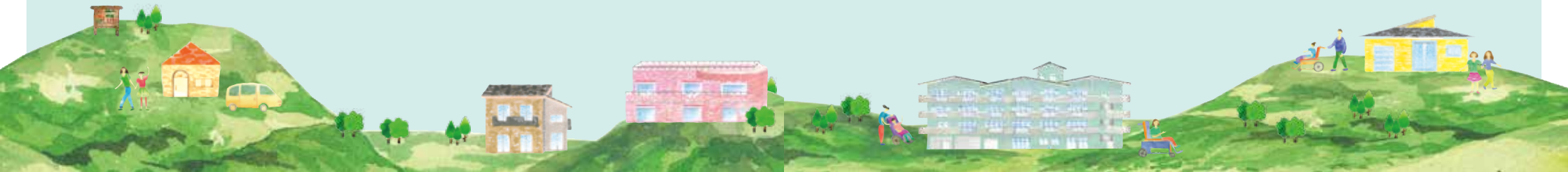
これからどんなに新たな時代がやってきても、変えてはいけないチャレンジの土台があります。それは、心・技・体の全てがメンバーさん中心に動く、「美しい支援」。ほとんどが未経験、ボランティアのような



状態だった最初のスタッフたちも、20年の経験を通して支援力をめきめきとつけていきました。技術や体力はもちろんのこと、メンバーさんと喜びを分かち合う心が育ってくれたことは、みなと舎のかけがえない財産です。そんな先輩たちの「美しい支援」が、伝統として受け継がれていくように…。私からも最大限の発信を続けていきます。

## 社会にひろがる 「チャレンジ」を

メンバーさんが教えてくれるのは、人の生き様に優劣はないということ。ところが、この社会には「優生思想」という真逆の考え方が存在しています。2016年7月に起こった「やまゆり園」の事件は、この思想が特化した結果でしょう。ところで、テニスでの「チャレンジ」の意味、ご存知ですか? 審判のジャッジに対しての「異議」なんです。私たちの取り組みは、「優生思想」への「チャレンジ」として届くように。力を合わせながら、メンバーさんの命の尊さを社会へとひろげていきます。





# はじまりの物語

～みなと舎のあゆみ～

みなと舎が横須賀市初の重症心身障害児者のための社会福祉法人として誕生してから20年。いつだって新しいことにチャレンジし、新しい幸せの物語がはじまる。そんな予感があった、あのころを切り取りました。

わたしが  
みなと舎の物語を  
案内するぞ！



Step 1

## この子らしい生活を

当時のメンバーさんたちには、養護学校高等部を卒業した後、家庭以外の居場所がありませんでした。立ち上がったのは家族のみなさん。その強い想いに動かされて、法人「みなと舎」と通所施設「ゆう」が誕生しました。

1993年 04月

### コミュニケーションルーム「こどものへや」開所

全ての始まりはここから。養護学校卒業後の通える「場」として、家族自らの手で立ち上げた居場所です。ボランティアと地域のみなさんに囲まれて、5人のメンバーさんたちが自然体で日々を楽しんでいました。



メンバーさんもスタッフも、若かりしあの頃です

1997年 09月

### 社会福祉法人「みなと舎」設立認可

「こどものへや」をもっと確かなものにした。市から社会福祉法人として認められることで、メンバーさんたちの未来は、ぐんと広がりました。



多くの方の想いをのせた「ゆう」の開所式



初代施設長は、飯野さん

1998年 08月

### 精神薄弱者通所更生施設「ゆう」開所

草木が輝く野原のそばに、メンバーさんたちの新しいステージができました。全館カーペット敷きの施設で、「今日は何をしようかな?」。5人だったメンバーさんは14人になり、賑やかな声が響きます。

精神薄弱者通所更生施設「ゆう」は、1999年当時の名称です。



おめでとうございます！

1999年 01月

### メンバーさんの出身市町村主催の成人式へ出席

みなと舎内外のたくさんの人から祝福され、地域の成人の仲間入りを果たしました！

1999年 08月

### ゆうプロオープンデー開催

みなと舎を応援してくださる地域の方たちに、感謝の心を伝えるため、様々なお楽しみを準備しました。



初期。施設長自らギターを弾いておもてなし



地域のみなさんと盛り上がってます！





電車でのお出かけもあたりまえになりました

## Step 2

### 地域の中でもっと自由に

メンバーさんの活動の広がりに合わせて、みなと舎の事業も広がります。「ゆう」での実践でケアを習得した支援スタッフたちが、施設の外でもメンバーさんの生活を幅広くサポートするようになりました。



### 2003年 04月

#### ヘルパー事業 「ヘルパーゆう」開始

より地域へ。より社会へ。  
ご自宅や外出、様々な場面でメンバーさんのご希望を叶えます。



どんなささいな悩みごとでも受け止めます

### 2002年 04月

#### 相談事業「支援センターゆう」開始

より多くの方の希望を叶えるために。  
みなと舎と地域のみなさんをつなぐ相談窓口ができました。



地域のFMラジオにメンバーさんがゲスト出演！



毎日、自分のお部屋で眠るメンバーさん。よく眠れましたか？

### 2003年 10月

#### 重度重複障害者対象 グループホーム事業 「生活ホームはなえみ」開所

1週間のうち、6日間。  
ほとんどをこの場所で過ごします。  
明るいきりびんぐに、好きなもので  
いっぱい個室。親元を離れて、  
ご自分らしく過ごす  
メンバーさんの姿があります。

2008年10月～「生活ホームはなえみ」は  
「ケアホームはなえみ」に名称変更しています。

## Step 3

### 時には家族と別々の時間を

生活のスタイルにも変化があります。  
メンバーさんがもっと自分らしく生きられるように。  
家族と離れてそれぞれが安らげる時間を持つように。  
生活や宿泊が可能な施設も誕生しました。

### 2005年 10月

#### 短期入所事業 「ショートステイゆう」開所

家族の急な用事や休息、または  
メンバーさんが宿泊体験するため一時的に  
利用する場として誕生しました。  
一軒家スタイルでアットホームに過ごせます。



ショートステイゆうでの様子と外観

### 2009年 01月

#### 共同生活介護事業 「ケアホームはなあかり」 開所

「はなえみ」での生活は、  
メンバーさんたちの憧れに。  
無事軌道に乗ったケアホームでの  
生活を望むメンバーさんのために、  
第2号として「はなあかり」が  
はじまりました。



待望のはなあかり開所。みんな集合！





# Step 4

## メンバーさんの自立生活のために

いつかは自分の仲間と一緒に、新しい生活を築きたい。  
 メンバーさんにも、自立したいという想いがあります。  
 また、家族の高齢化などで一緒に暮らすことができなくなってしまっても、  
 メンバーさんが安心して自分らしく一生を過ごせる場所ができました。

坂道だってなんのその！  
 絶景が楽しめるライフゆう散歩

## 2014年 05月

### 医療型障害児入所施設・療養介護事業「ライフゆう」開所

青い海と空を望む静かな丘の上で、  
 毎日を健やかに過ごす。  
 医師・看護師が常駐しているの  
 で、医療ケアが必要なメンバーさん  
 も安心して暮らすことができます。



ライフゆう開所式の様子



見晴らしのいいカフェで  
 おしゃべり。

## 2015年 08月

### 短期入所(併設型) 「ショートステイ・ライフゆう」開始

ライフゆうに併設して、医療ケアに対応した  
 ショートステイがはじまりました。



ライフゆうの一室を利用して

# Step 5

## 次の世代へ

みなと舎とメンバーさんの関係は、  
 子どもの頃から広がっていきます。  
 障害がある子どもが幼いうちから  
 家族も一緒にしっかりとサポートする  
 取り組みを始めました。

## 2015年 09月

### 障害児通所支援・ 放課後等デイサービス 「ライフゆう学齡デイ」開始

障害のある子どもや家族が、  
 より生き生きと暮らすことができるように。  
 子どもたちが学校の休日や  
 放課後を楽しむ場所ができました。



スタッフも一緒に  
 夢中で遊びます！

## 2015年 09月

### ライフゆう保育室 「みゆう」開始

スタッフも安心して  
 次の世代を育てるように。  
 勤務時間中、スタッフの  
 子どもたちを預かっています。



ここでパパとママを  
 待ってます



メンバーさんの可能性は、まだまだ無限大。  
 みなと舎物語は、ネバーエンディング・ストーリー！  
 次はどんな章が幕を開けるのかな？  
 これからも、楽しみにしててくださいね！





お誕生日のお楽しみ外出で、カラオケに行きました。大好きな歌を、たくさん歌いました!



音楽大好き!一緒に音を感じて奏するのは、本当に楽しいよね!!



軽く支えてもらいながら、上手にバランスをとって座っています。バランスをとって、楽しいです!



2018年初夏、ひかりのお部屋でコーヒー屋さんがOpen!! こだわりのコーヒー豆の香りを感じながら、丁寧に挽いています。



身体を動かすが大好きな2人。パワー全開で館内をかつ歩します。



洋服を買いに来ました。自動精算機でのお会計に挑戦!



メンバーさんの

## チャレンジTODAY!

みなと舎物語は、幸せへのチャレンジの物語。主役のメンバーさんたちは、新しくやってくる日々を、自分らしくチャレンジしています。そんな生命力にあふれる、みなさんの一コマをご紹介します。



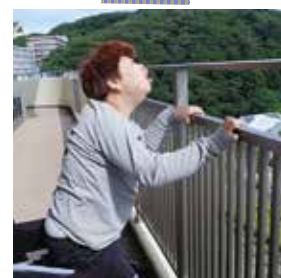
スムーズに昇れる日や、少しだけお休みしながら昇る日も。“継続は力なり!” 今日も大切に一歩いっば。



最初は絵本にするつもりで始めた執筆活動。始めてみたら伝えたお話が沢山あって、長編小説に進化中です。



シフォンケーキ作りに挑戦! たまごの良い香りと、泡立て器の振動で、なんだかうっとりしてきちゃいました。



自力でバーに掴まって、立ったり座ったり。風を感じながら足腰や腕を鍛えます。



ねらいを定めて、ゆっくりボールを押して、ストライク取るぞー!!



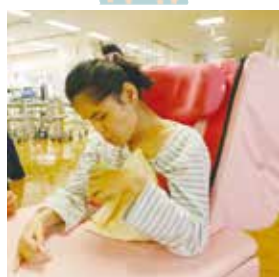
こうして自力で座り続けることも出来ます。右手を使っておもちゃの葉っぱをむしる技にも挑戦です。



この打楽器に身体を乗せて、優しい振動を身体で感じます。少しずつリラックスできます。



握力の強い左手に、クイックワイパーを握りしめて、ひろ〜いフロアをお掃除するよ〜!



ストローを使えば、ご自分で上手に飲み物を飲むことが出来ます。コップもしっかり持てます。



車椅子に乗っている事が多いけれど、装具を付けて立位の訓練もしています。



毎食使う、蒸しタオル。レンジで温めたら保温バックに入れます。1つずつ丁寧に。



園芸部・綺麗な花や、美味しい実を想像しながらの水やりは楽しいですね〜!

# 大公開?! 物語の「バックステージ」

メンバーさんの人生をサポートする事業を  
次々と展開してきたみなと舎。  
その道のりは決して穏やかなものでは  
ありませんでしたが…?



1997.09.11  
社会福祉法人「みなと舎」

1998.08.01  
通所施設「ゆう」

## み

なと舎は「どんなに障害の重い方にも地域生活を」という理念のもと、1998年に横須賀市初の重症心身障害・重度重複障害者(以下重心)のための通所施設を開設しました。そのきっかけとなったのは、障害者のご家族からの相談です。

当時、養護学校卒業後の通える「場」としてご家族自らの手で立ち上げた横須賀の地域作業所「こどものへや」から、「もっと安定して通える新しい施設を作ることができないか」という希望の声を伺いました。

当時、社会福祉法人設立やいくつかの施設開設に携わっていた、現理事長の飯野雄彦さん。ご家族の「この子らしい生活を」という熱い想いに触れ、その実現のために出来ることはないかと考えました。ここから飯野さんご家族のチャレンジが始まります!

法人・施設づくりに必要なもの、それは、「ひと」「もの」「かね」の“3種の神器”です!

まずは「かね」のお話。相談にいらしたお母さんには、「5000万円あれば施設は出来るでしょう。」と伝えました。それから1ヶ月も経たないうちに、彼女は5000万円入った通帳を持っていらっしまったのです! 一体どうやって…? 内訳を聞いてみると、バザーをしたり、「こどものへや」の運営費を節約していたものだったり…。更に驚いたのが、「我が子が大学に入ったと思って、みんなでお金を出し合おう!」ということ。本当に感服でした。また、「こどものへや」時代からご寄付の後援活動をして下さった方々が、法人設立と同時に「みなと舎後援会」に! 施設「ゆう」建設時の借入金を償還するために、多くの会員を募集して、支援して下さいました。

さあ、次は土地(もの)探し。検討した土地は14か所にもなり、数組のお父さん、お母さん、メンバーさんと一緒に月に1~2回の頻度で「ピクニック」気分でお出かけ

ました。着くまではワクワク、着いてからは建てる場合を想像してさらにワクワク、そしてみんなで食べるお弁当…楽しい時を過ごしました。その中で、今「ゆう」が建っているのは最初に訪れた土地。日当たりが良く自然がいっぱいで、みんな気に入りました。当時、世の中の風潮として施設づくりの一番のハードルとなっていたのは近隣の方の反対運動でしたが幸いなことに近隣からは気持ちよく受け入れていただくことができ、野菜の無人売店を3か所も出して頂くことが出来ました。

最後に、重いハンディのある方への支援には「ひと」が最も重要課題。しかし、横須賀市からいただいた補助金は、たったの運転士1人分…! そこで、「非常勤職員数も、制度で配置することが定められている常勤職員数に換算して充当することができるようにしてほしい。」というお願いを県に受け入れてもらうことになりました。常勤の代わりに非常勤を多数採用する…ここで絞り出した知恵が、その後のみなと舎の大きな特長につながっていくのです。



ボランティアさんのギターにタッチ!  
出会いに溢れる毎日の始まりです



2002.04.01  
支援センターゆう

1998.08.01  
ヘルパーゆう

## 当

時、市には入所施設が無く、障害者ご自身が推薦した方をヘルパー有資格者と認めることで、在宅生活を成立させていました。この制度を「自薦ヘルパー」といいます。

人件費不足を解消するために、「ゆう」で採用した職員には、この自薦ヘルパーの資格をつけるよう市に交渉したところ、週1日は、通所事業とは別のヘルパーによる

「社会参加活動」という形で運営し、追加収入を得ることができました。また、この自薦ヘルパーを活用して、重度障害のある方々の在宅生活を支えるために「支援センターゆう」(相談支援事業)を立ち上げることにもなりました。

さらに、「ゆう」では医療的ケアが必要なメンバーさんを積極的に受け入れてきました。そこで、看護師の資格がなくてもス

タッフ各自が医療的ケアに参加できるよう、養成研修・検定試験によるみなと舎独自の資格制度を全国に先駆けて始めました。

少数精鋭よりも大勢の力でメンバーさんの日常は充実します。非常勤職員の採用・自薦ヘルパーの活用・スタッフによる医療的ケアの導入によって、限られた収入の中で十分な「ひと」の「量」を確保。余裕のある手厚い支援体制を実現できたのです。







2003.10.01  
ケアホームはなえみ



2009.04.01  
ケアホームはなあかり



「ゆ」開設から約5年後に、メンバーさんのご家族からケアホーム開設のご要望をいただくようになりました。日本初の試みだった重心のケアホーム。いつ終わってもおかしくない状況を了承いただいた上で、「メンバーさん本人の自立のために」という想いの方の入所を決めました。また、「我が子が結婚すると考えて」と、土地建物に必要な金額の一部を寄付していただきました。ここでも重要なのはスタッフの「量」。メンバーさんをよく知る「ゆう」のスタッフがケアホームに関する勉強会を開き、「ゆうスタッフ」「ヘルパースタッフ」そして「ケアホームスタッフ」と、「3足のわらじ」を履くことになりました。



スタッフ手作りの食事。味はいかがでしょう？

普段は昼間しか会えない仲間と、ワクワクのお泊まり

こうして、知的障害を基準に考えられていたケアホームの制度に、身体介護・家事援助のヘルパー利用を組み合わせることで実現した日本初の重心ケアホーム「はなえみ」ですが、この後早速、制度改正によるケアホームのヘルパー利用廃止のピンチに直面します。しかしみなと舎が国を説得し、無事に事業を続けることができました。

こうして事業は軌道にのり、5年後には2つ目の「はなあかり」も誕生しました。



2005.10.01  
ショートステイゆう



「はなえみ」ができてから2年後、ケアホームに入りたくても入れなかったメンバーさんのために、ショートステイ事業に取り組むことにしました。

場所は、通所施設「ゆう」の隣のあったかつての「はなえみ」。「ショートステイゆう」に生まれ変わり、多くのメンバーさんが利用できる場になっています。

さて、このショートステイは「単独型」といって、これも全国初の取り組みでした。通常の重心のショートステイは入所施設に併設しています。併設の場合はスタッフを増やさなくて済みますが、単独型となると新たにスタッフを確保しなければいけない。つまり、手厚さが必要とされます。一方、空床時には収入はありません。そこで、重心施設利用単価に近い単価設定（差額補助）、一定のスタッフ確保のための補助（空床補助）、土日祝日利用時の人件費割増補助を市に認めていただくことで、資金不足のリスクを回避することができました。

この他にも、日中一時支援事業、障害福祉サービス等地域拠点事業など、先駆的な取り組みには、市の方が本当に積極的に力を注いでくださいました。



2014.05.01  
入所施設「ライフゆう」



「近」年、高度な医療ケアが必要な方が増えています。特に増えているのは、人工呼吸器の方。この方たちはケアホームでまだ暮らすことができません。医師・看護師等医療スタッフが常駐する病院機能のある環境でなければ難しいのです。医療の必要なのは病院だけじゃない！と。ご家族が高齢化されてきて、その介護力が代わるものがどんどん必要になってきましたが、グループホームを増やしていくことには限界がありました。さらに、中核市

である横須賀の市民は、市外の神奈川県域の施設利用ができなくなり、自前で重症心身障害児者入所施設を持たなければならない立場にありましたので、いざご家族が倒れてしまった時には静岡や千葉の県外施設に行かざるを得なかったのです。

このように待ち望まれていた、横須賀市内の重心施設…。設立者を募る説明会には7～8の法人等が来ていましたが、手を挙げたのはみなと舎だけ。それはなぜか？重心施設設立基準は他施設設立基準に比べハードルが高く、相当の覚悟が必要だったからです。特に、施設設立の為の条件（ひと・もの・かね）が非常に厳しい！それでも、市内で入所が必要な方はほとんどみなと舎のメンバーさんだったので、私たちがつくらなければ…と背中を押され、覚悟を決めました。

法人として次のグループホーム設立のために用意していた資金、重心施設建設の為に多額な寄付をして下さった多くの方々、「ゆう」ご家族のみなさんが「みなと舎入所施設設立基金」という形で毎月積み立ててくださったお金など…全ては…メンバーさんのために。なんとか資金（かね）を集めることができました。

法人の理念「本人中心」は施設建設（もの）にも生かされています。いくら病院機

能を求められていても、ここはメンバーさんの「生活の場」。その一つが、「床のカーペット敷き」「高柵のないベッド」です。

重心施設設立の難しさは、「もの」と「かね」とどまりません。運営に必要な「ひと」の「量」、さらに「質」が求められるからです。病院機能としての医師・看護師・薬剤師・栄養士・PT・OTなどの多くの専門職と、24時間365日を支えるための大勢の支援が必要です。もちろん、多額





の人員が必要となりました。

というわけで、開設後、経営的には大変厳しい時を過ごしましたが、他の入所施設とは毛色の違う「ライフゆう」になってきました。ご家族と程よい距離を保ちながら、住み慣れた地域で共に生きるメンバーさんを多くの場面で見受けられます。少しずつですが、同じ法人内の「ゆう」に通っていただき、日中を一緒に過ごしていただくようにもなりました。これも全国的には例がありません。一つの法人内に入所施設と通所施設が揃っているから実現できたことです。外出も、メンバーさん一人ひとりにあった社会参加という視点で増えてきました。

新しい重心施設という事で、見学者はとも多く、同業者も全国からお見えになります。その度に、「ライフゆうのメンバー



さんは良い顔をしているね」と言われます。

多額の借金とスタッフ不足でスタートした、新しい生活・新しい事業の運営。スタッフの尽力が少しずつ実を結び、これからは更なる充実・発展を目指すだけです。伸び代は増える一方！素晴らしい「ライフ」(LIFE=命・暮らし・人生)と「ゆう」(友・優・裕…)を求めて。

06

Challenge!!

2015.08.01

ショートステイ・ライフゆう

2015.09.01

ライフゆう学齢デイ

多

くのご家族とメンバーさんから必要とされているショートステイ。みなと舎2つ目のショートステイが「ライフゆう」内にもスタートしました。「ライフゆう」運営の充実が緊急課題となり、なかなか受け入れを進めることができませんでしたが、スタッフ確保の課題を乗り越え、これからのニーズに答えていきます。

また、「ライフゆう」の中には、重心児のための放課後等デイサービス「ライフゆう学齢デイ」も誕生。重い障害児をみてきたみなと舎の取り組みが、ご家族・行政からの期待を受けて生まれました。お子さんたちの笑顔とスタッフの優しい眼差しが印象的です。



スタッフのピアノに合わせて、自由に音楽を楽しむライフゆう学齢デイの皆さん

We can because we ought!

どんなに難しいことも、使命があればできる！これが、「We can because we ought!」。私達の信念です。重心の方みんなの夢、一人ひとりの夢を実現させるのが、私達の使命だから！



## みなと舎サポーターズ!!

この地域を中心に、つながりの輪がひろがって、メンバーさんとみなと舎を応援する多くの方が集まりました。その中でもサポートの中心となっている方々をご紹介します。



SUPPORTERS!!

メンバーさんのご家族

法人20周年を振り返り、想いを語り合いました!

法人や事業の立ち上げ発案から資金集めまで、ご家族は未来を創る大きな力です。我が子だけでなく、全てのメンバーさんがよりよい暮らしを送れるように力を尽くしてくださいませ。これからもみなと舎はメンバーさんとご家族の想いを追いかけていきます。



YCC ゴスペルクワイア



ゆうみんポケットつばきの会



ゆうみんポケット虹の会



ピアニスト宮川久美さん



わんわんわん



木曜会

2

ボランティアの方々

様々な特技を持ち寄って、メンバーさんの地域生活や社会参加の可能性を大きく広げてくださる、チャレンジのサポーターです。

3

後援会の方々

メンバーさんのご家族以外にも、いつもみなと舎の活動や取り組みを気にかけて、様々な形で応援して下さる方々がいらっしゃいます。一例は、機関紙「たまごむし」の発行。みなと舎の広報に大きな力を与えてくださっています。

あなたもみなと舎サポーターになりませんか?

後援会についてのお問い合わせは、みなと舎法人本部 (046-855-3911) まで。





みなと舎 理事長  
飯野 雄彦さん

みんなで  
ワイワイ！  
たのしい  
パーティー！



## みなと舎物語の仲間が こんなに集まりました 20周年感謝のつどい！

2017年、創立20周年を迎えたみなと舎の記念式典。  
創り上げて来たのは、サービスや建物ではなく、  
かけがえのない仲間たちだったのだ、と改めて  
幸せを噛みしめるひとときを過ごしました。



みなと舎 前理事長  
瀧川 郁子さん



記念講演  
社会福祉法人 訪問の家顧問  
日浦美智江さん

### 感謝のごあいさつ！

みなと舎のチャレンジの  
先頭を切ってきた  
キーパーソンのみなさん。  
20年の想いがほとばしります。



式典のプログラムは  
たまごむし型！



今日は特別  
おいしいなあ♡



### コンサート

宮川久美さん

### お祝いのメロディ♪

チャレンジに彩りを添えて  
くれるのは、ボランティアの方々！  
ピアニストの宮川久美さんから  
美しい演奏のプレゼントです！♪



2017年10月28日(土) 撮影



20周年の手拭いが配られました！

### スペシャルランチ！

毎日の食事がチャレンジですが、  
20種類の手作り料理が詰め込まれた  
今日のお弁当はその中でも格別です！



### ありがとうのチャイム

伝える方法はいくらでもある！  
メンバーさんらしいやり方で、  
ありがとうのごあいさつが響きます。

